

平成 28 年度 研究成果報告書

Research Achievement Report FY2016

講座名・職名 Course Title・Job Title	アジアⅢ講座・講師
氏名 Name	西岡 美樹
専門分野 Academic Field	言語学・ヒンディー語学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	ヒンディー語と日本語の言語対照研究
<p>今年度は昨年度に引き続き「ウェブコーパスを利用したヒンディー語・日本語の複合動詞の対照研究」(科研費[課題番号: 15K02517])の課題を中心に研究を進めた。</p> <p>まず4月に、昨年度完成したヒンディー語のウェブコーパス(Corpus Of Spoken Hindi: COSH)の検索テストで判明したアノテーションの問題について研究協力者と打ち合わせを行い、解決法を議論した。今年度の開発面での柱であった検索インターフェース(COSH Concordancer: COSH Conc)については、10月公開を目指した開発計画と、ウェブコーパス公開の準備(ドメイン取得、サーバー契約など)に関する詳細な打ち合わせを行った。7月にはウェブサイトの公開、COSHのトップページ、実際の検索に必要なユーザーマニュアルの作成とその英語化について、再度打ち合わせをした。予定通り順調に進んだおかげで、9月には Preliminary Version を内部公開し動作確認を行うことができた。海外の研究協力者たちにフィードバックをいただき、11月には正式版(Version 1.00)を海外の南アジア諸言語の研究者用メーリングリスト上で一般公開(国内向け公開は12月)した。研究環境が一通り整ったところで、ヒンディー語の複合動詞 <i>jānā</i>「行く」に引き続き、<i>denā</i>「与える」と否定辞の共起について、この COSH を使い、その使用頻度とその環境を調査し研究を進めた。なお、前者の <i>jānā</i>「行く」については、初年度の発表から得られた知見を元に、4月に University of Lisbon で開催された SALA-32 で、“Functions of <i>jaanaa</i> as a V2 in Hindi: From Lexicalization to Grammaticalization” という題目で成果を発表した。また、知己の研究協力者の協力により、5月に“A Corpus-based comparative study of V1+V2 concatenations in Hindi and Japanese: Co-occurrence of STEM+<i>jānā</i> / -te+<i>shimau</i> and Negation” という題目で Université Paris Diderot で講演した。</p> <p>上記科研プロジェクトを進める傍ら、2013年度に終了した「ヒンディー語と日本語の属格後置詞および格助詞・準体助詞の対照研究」(科研費[課題番号: 23652084])の研究も進めた。8、9月には、国内の共同研究者とともに、インドから来日していた研究協力者を交え、ヒンディー語の名詞修飾表現の方策と日本語の格助詞「の」に照らした例について調査をし、改めて細かな議論もした。さらに、国立国語研究所のプロジェクトである名詞修飾表現の研究会にも参加し、ヒンディー・ウルドゥー語の名詞修飾表現の類型論的立ち居地を確認しながら、知見を広げることができた。</p> <p>なお、今年度の成果も含めこれまでの対照言語研究の成果はすべて、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所主催の2016年度言語研修のヒンディー語の各テキストに反映させた。</p>	